

勘定奉行

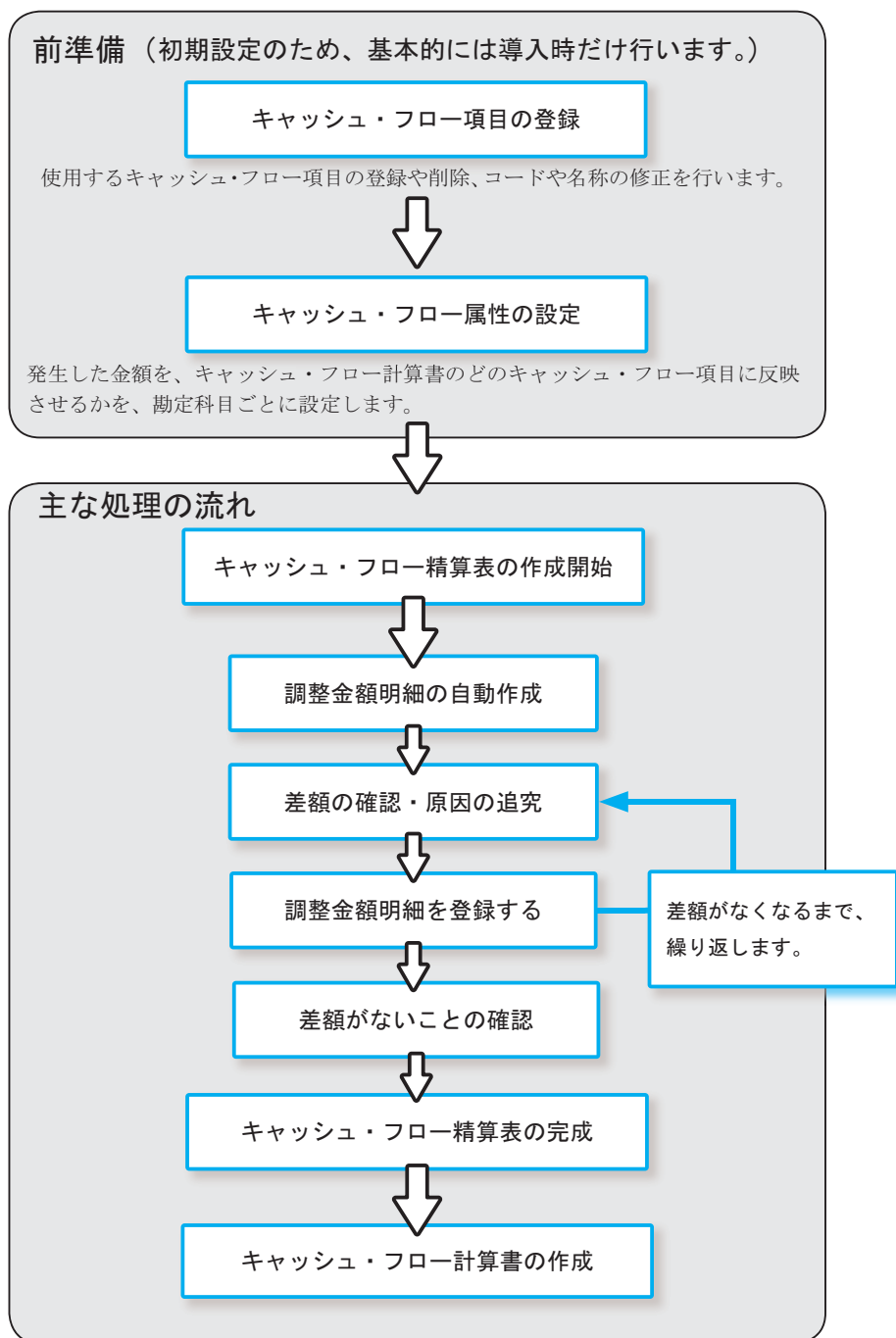
キャッシュ・フロー計算書の作成手順

Ver. 0. 02 11/07/01

キャッシュ・フロー計算書の作成

● キャッシュ・フロー計算書作成の流れ

当システムでは、キャッシュ・フロー計算書を以下の手順で作成します。



● 前提条件

当システムでキャッシュ・フロー計算書を作成するための、前提条件について記載します。

- キャッシュ・フロー項目およびキャッシュ・フロー属性を、正しく設定しておきます。
- キャッシュ・フロー計算書を作成する期間の仕訳伝票を、すべて登録してから、キャッシュ・フロー計算書の作成をはじめてください。

※キャッシュ・フロー計算書を作成した後に、その期間の仕訳伝票を追加・修正すると、再度、調整金額明細を入力しなおす必要があります。

● 具体的な作成手順

当システムでキャッシュ・フロー計算書を作成するための、具体的な作成手順について記載します。

1 キャッシュ・フロー精算表の作成を開始する

[決算処理]-[キャッシュ・フロー計算書]-[キャッシュ・フロー精算表]-[キャッシュ・フロー精算表]メニューを選択し、[キャッシュ・フロー精算表]画面を表示します。

キャッシュ・フロー精算表 - 条件設定

基本条件 詳細条件

集計期間
月範囲(T)... 平成 19年 4月 1日 ~ 平成 20年 3月 31日

画面(Y)
印刷等(P)...

決算時、キャッシュ・フロー計算書を作成する際に指定する期間を選択します。

キャッシュ・フロー精算表

集計期間 自 平成 19年 4月 1日 至 平成 20年 3月 31日 税処理 税抜 (単位: 円)

貸借対照表科目 損益計算書科目

コード	勘定科目名	繰越金額	増減	借方調整金額	貸方調整金額	差額
100	現金	16,131,350	137,289,950	0	0	137,289,950
101	小口現金	689,300	864,700	0	0	864,700
110	当座預金	95,810,000	-48,956,680	0	0	-48,956,680
111	普通預金	38,443,200	94,035,778	0	0	94,035,778
112	通知預金	1,500,000	0	0	0	0
113	定期預金	15,000,000	0	0	0	0
貸借対照表科目計				0	0	0

コード	キャッシュ・フロー項目名	借方調整金額	貸方調整金額	合計
営業活動によるキャッシュ・フロー				
P100	税引前当期純利益	0	0	0
O100	減価償却費	0	0	0
O101	減損損失	0	0	0
O102	貸倒引当金の増加額	0	0	0
O103	その他の引当金の増加額	0	0	0
O104	受取利息及び受取配当金	0	0	0
O105	支払利息	0	0	0
O106	為替差損	0	0	0
O107	有価証券売却益	0	0	0
O108	有形固定資産売却益	0	0	0

F1 操作説明 F2 印刷等 F3 調整金額 F4 F5 F6 ジャンプ F7 自動調整 F8 再集計 F9 単位設定 F10 条件設定 F11 F12 閉じる



この時点では、キャッシュ・フロー項目ごとの集計は行われません。
調整金額明細の自動作成を実行すると、キャッシュ・フロー項目ごとの
金額が算出されます。

▶ 作成手順 2 参照

2 調整金額明細を自動作成する

[キャッシュ・フロー精算表]画面で[自動調整]を押し、調整金額明細を自動作成します。

The screenshot shows the 'キャッシュ・フロー精算表' (Cash Flow Statement) screen. At the top, there are buttons for 'F6 ジャンプ', 'F7 自動調整', and 'F8 再集計'. The 'F7 自動調整' button is highlighted with a blue box. Below it, a dialog box asks '調整金額明細を自動作成しますか?' (Do you want to automatically create the adjustment amount details?). The 'はい(Y)' (Yes) button is highlighted with a blue box. A callout box says '[はい] ボタンをクリックします。' (Click the [Yes] button). Below the dialog box, another dialog box asks '調整金額明細を作成しました。作成した調整金額明細を確認しますか?' (The adjustment amount details have been created. Do you want to confirm the created adjustment amount details?). The 'いいえ(N)' (No) button is highlighted with a blue box. A callout box says '確認のメッセージが表示されますので、[いいえ] ボタンをクリックします。' (A confirmation message will be displayed, so click the [No] button). Below the dialog boxes, the 'キャッシュ・フロー精算表' screen is shown. It displays a table of '調整金額明細' (Adjustment Amount Details) with columns for 'コード', '勘定科目名', '繰越金額', '増減', '借方調整金額', '貸方調整金額', and '差額'. The table shows various adjustment items and their amounts. A callout box points to the '貸方調整金額' and '貸方調整金額' columns, saying '調整金額明細の自動作成を実行すると、キャッシュ・フロー項目ごとに金額が集計されます。調整金額明細をもとに、キャッシュ・フロー計算書が作成されます。' (When the automatic creation of the adjustment amount details is executed, the amounts are collected for each cash flow item. Based on the adjustment amount details, the cash flow statement is created).

コード	勘定科目名	繰越金額	増減	借方調整金額	貸方調整金額	差額
100	現金	16,131,350	137,289,950	16,131,350	153,421,300	0
101	小口現金	689,300	864,700	689,300	1,554,000	0
110	当座預金	95,810,000	-48,956,680	95,810,000	46,853,320	0
111	普通預金	38,443,200	94,035,778	38,443,200	132,478,978	0
112	通知預金	1,500,000	0	1,500,000	1,500,000	0
113	定期預金	15,000,000	0	15,000,000	15,000,000	0
貸借対照表科目計				1,076,679,303	1,074,779,303	1,900,000

コード	キャッシュ・フロー項目名	借方調整金額	貸方調整金額	合計
0100	営業活動によるキャッシュ・フロー	0	3,850,000	3,850,000
0101	減価償却費	0	0	0
0102	減損損失	0	0	0
0103	貸倒引当金の増加額	0	0	0
0104	その他の引当金の増加額	0	0	0
0105	受取利息及び受取配当金	0	0	0
0106	支払利息	0	10,000,000	10,000,000
0107	為替差損	0	0	0
0108	有価証券売却益	300,000	0	-300,000
0109	有形固定資産売却益	242,858	538,096	295,238
0110	投資有価証券売却益	0	0	0

3 差額を確認する

[キャッシュ・フロー精算表] 画面の上部には、合計残高試算表に出力される勘定科目ごとの金額（増減額）と、自動作成された調整金額明細の金額（借方調整金額・貸方調整金額）が表示されます。

貸借対照表科目		損益計算書科目				
コード	勘定科目名	繰越金額	増減	借方調整金額	貸方調整金額	差額
100	現金	16,131,350	137,289,950	16,131,350	153,421,300	0
101	小口現金	689,300	864,700	689,300	1,554,000	0
110	当座預金	95,810,000	-48,956,680	95,810,000	46,853,320	0
111	普通預金	38,443,200	94,035,778	38,443,200	132,478,978	0
112	通知預金	1,500,000	0	1,500,000	1,500,000	0
113	定期預金	15,000,000	0	15,000,000	15,000,000	0
貸借対照表科目計				1,076,879,303	1,074,779,303	1,900,000

[貸借対照表科目] ページの右下に表示される差額が、0円かを確認します。

※ここでは、勘定科目ごとの差額は、チェックする必要はありません。

0円ではない場合（差額が発生している場合）は、このままでは正しいキャッシュ・フロー計算書が作成できません。

差額を0円にするために、**4**に進みます。

0円の場合は、**6**に進んでください。

4 差額の原因を追究し、差額を0円にする

3の差額を0円にするために、勘定科目ごとに発生している差額をチェックします。

表示されている勘定科目の上から順に、確認します。

[会計帳票]-[元帳]-[元帳]メニューで、勘定科目ごとの実際の取引（仕訳）を確認して原因を追究し、[決算処理]-[キャッシュ・フロー計算書]-[キャッシュ・フロー精算表]-[調整金額入力]メニューで修正します。

注 意



差額の原因追究および差額を0円にする作業中は、[キャッシュ・フロー精算表]画面を表示させたままにしておいてください。

[キャッシュ・フロー精算表]画面を中心に、作業を進めていきます。



原因を追究するときは、勘定科目ごとに確認していきます。

ポイントは、以下のとおりです。

○調整金額明細が自動作成されていないのに（借方調整金額・貸方調整金額に金額が発生していないのに）、なぜ差額が0円でないのか。

○逆に、調整金額明細が自動作成されているのに、なぜ差額が0円でないのか。

ここでは、以下の勘定科目に差額が発生していることを例に挙げて、説明します。

- ①「利益準備金」と「別途積立金」
- ②「繰越利益剰余金」
- ③「有価証券評価差額金」
- ④「有価証券」

①「利益準備金」と「別途積立金」

貸借対照表科目 損益計算書科目						
コード	勘定科目名	繰越金額	増減	借方調整金額	貸方調整金額	差額
410	自己株式処分差益	0	50,000	0	50,000	0
415	利益準備金	45,000,000	-200,000	0	0	-200,000
420	別途積立金	45,000,000	100,000	0	0	100,000
P6200	繰越利益剰余金	133,665,000	-119,341,078	121,441,078	0	2,100,000
431	自己株式	0	100,000	300,000	400,000	0
436	自己株式申込証拠金	0	0	0	0	0
貸借対照表科目計				1,076		

「利益準備金」と「別途積立金」に差額が発生しています。

借方調整金額・貸方調整金額は、0円です
(調整金額明細は、作成されていません)。

元帳で勘定科目ごとの取引を確認します。

元帳 - 条件設定

基本条件 詳細条件 検索条件1 検索条件2 取引先

集計期間
月範囲(1)... 期首振替 1日 ~ 期末決算整理 31日

集計基準
科目指定 元帳/バターン指定

元帳種類
勘定元帳 補助元帳

補助科目が登録されている勘定科目は出力しない

自マスター
勘定科目コード 415 利益準備金 ~ 415 利益準備金

補助科目コード 最初 ~ 最後

元帳/バターンコード

税処理
税抜 税込

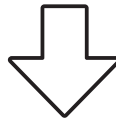
前述 1 で指定した期間を指定します。

「利益準備金」を指定します。

「詳細条件」ページの、「相手科目を個別表示する」と「諸口の内訳を表示する」にチェックを付けます。

「画面」ボタンをクリックします。

相手科目表示設定
相手科目を個別表示する 諸口の内訳を表示する



集計期間 自 平成 19年 期首振戻 1日 至 平成 20年 期末決算整理 31日 税処理 税抜

勘定科目 415 利益準備金

伝票日付	(相手マスター)	(相手マスター)	借方	貸方	残高
伝票No.	勘定科目 / 補助科目	摘要			
繰越金額					45,000,000
	期首振戻計				
	前月繰越				
	4月計				
	前月繰越				
19/05/20	430 繰越利益剰余金			100,000	45,100,000
000094	剰余金の配当				
	5月計		0	100,000	
	前月繰越				
	6月計				
	前月繰越				

F1 操作説明 F2 印刷等 F3 付箋 F4 前科目 F5 次科目 F6 ジャンプ F7 F8 再集計 F9 F10 条件設定 F11 F12 閉じる

「利益準備金」については、この1つの仕訳だけ存在していることが分かります。

相手科目が「現預金（キャッシュ）」ではありませんので、キャッシュの移動には関係ない仕訳です。

貸借対照表科目 損益計算書科目

コード	勘定科目名	繰越金額	増減	借方調整金額	貸方調整金額	差額
410	自己株式処分差益	0	50,000	0	50,000	0
415	利益準備金	45,000,000	-200,000	0	0	-200,000
420	別途積立金	45,000,000	100,000	0	0	100,000
P6200	繰越利益剰余金	133,665,000	-119,341,078	121,441,078	0	2,100,000
431	自己株式	0	100,000	300,000	400,000	0
436	自己株式申込証拠金	0				
	貸借対照表科目計					

したがって、調整金額が0円であることは、正しい結果です。



元帳だけでなく、仕訳伝票も確認する場合は、確認する明細行を選択し、[ジャンプ]を押してください。
該当する仕訳伝票が表示されます。



「別途積立金」についても、同様に確認します。

元帳

集計期間 自 平成 19年 期首揃戻 1日 至 平成 20年 期末決算整理 31日 借処理 税抜

勘定科目 420 別途積立金

伝票日付	(相手マスター)	(相手マスター)	借方	貸方	残高
伝票No.	勘定科目 / 補助科目				
繰越金額	摘要				
	前月繰越				0,000
	2月計				0,000
	前月繰越				0,000
20/03/31	430 繰越利益剰余金		200,000		44,800,000
000095	別途積立金の取崩し				
20/03/31	430 繰越利益剰余金			100,000	44,900,000
000095	別途積立金の積立て				
	3月計		200,000	100,000	
	前月繰越				
	期末決算整理計				
	累計				

「別途積立金」については、2つ仕訳が存在していることが分かります。

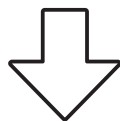
相手科目が「現預金(キャッシュ)」ではありませんので、キャッシュの移動には関係ない仕訳です。

F1 操作説明 F2 印刷等 F3 付箋 F4 前科目 F5 次科目 F6 ジャンプ F8 再集計 F10 条件設定 F11 F12 閉じる

貸借対照表科目 損益計算書科目

コード	勘定科目名	繰越金額	増減	借方調整金額	貸方調整金額	差額
410	自己株式処分差益	0	50,000	0	50,000	0
415	利益準備金	45,000,000	-200,000	0	0	-200,000
420	別途積立金	45,000,000	100,000	0	0	100,000
P6200	繰越利益剰余金	133,665,000	-119,341,078	121,441,078	0	2,100,000
431	自己株式	0	100,000	300,000	400,000	0
436	自己株式申込証拠金	0	0	0	0	0
貸借対照表科目計						

したがって、調整金額が0円であることは、正しい結果です。



では、なぜ差額が発生しているのでしょうか？





確認した勘定科目について、現預金科目を使用した仕訳が存在しない（キャッシュの移動がない）場合は、その仕訳の相手科目について確認していきます。



相手科目を確認します。

「利益剰余金」の仕訳を振り返ります。

430	繰越利益剰余金		
	剰余金の配当		
	5月計		

「別途積立金」の仕訳を振り返ります。

430	繰越利益剰余金		
	別途積立金の取崩し		
430	繰越利益剰余金		
	別途積立金の積立て		
	3月計		



いずれも、貸借対照表科目の「繰越利益剰余金」であることが分かります。
差額の原因を追究するため、さらに「繰越利益剰余金」についても確認します。



相手科目が異なる場合は、それぞれの相手科目について確認が必要です。
上記の例では、「利益剰余金」と「別途積立金」の仕訳上の相手科目が同じ
貸借対照表科目であったため、「繰越利益剰余金」について確認していきます。
※相手科目が損益計算書科目の場合は、差額を追究する必要はありません。

② 「繰越利益剰余金」

キャッシュ・フロー精算表

集計期間 自 平成 19年 4月 1日 至 平成 20年 3月 31日 税処理 税抜 (単位: 円)

貸借対照表科目 損益計算書科目

コード	勘定科目名	繰越金額	増減	借方調整金額	貸方調整金額	差額
406	資本金等減少差益	0	0	0	0	0
410	自己株式処分差益	0	50,000	0	50,000	0
415	利益準備金	45,000,000	-200,000	0	0	-200,000
420	別途積立金	45,000,000	100,000	0	0	100,000
P6200	繰越利益剰余金	133,665,000	-119,341,078	121,441,078	0	2,100,000
431	自己株式	0	100,000	300,000	400,000	0
貸借対照表科目計				1,076,679,303	1,074,779,303	1,900,000

コード カッシュ・フロー項目名

コード	キャッシュ・フロー項目名	借方調整金額	貸方調整金額	差額
P100	営業活動によるキャッシュ・フロー			
0100	税引前当期純利益		3,500,000	3,500,000
0101	減価償却費			
0102	減損損失			
0103	貸倒引当金の増加額			
0104	その他の引当金の増加額			
0105	受取利息及び受取配当金			
0106	支払利息			
0107	為替差損			
0108	有価証券売却益	300,000	0	-300,000
0109	有形固定資産売却益	242,858	538,096	295,238

F1 操作説明 F2 印刷等 F3 調整金額 F4 F5 F6 ジャンプ F7 自動調整 F8 再集計 F9 単位設定 F10 条件設定 F11 F12 閉じる

「繰越利益剰余金（科目区分）」にも、差額が発生していることが分かります。

借方調整金額が発生している（調整金額明細が作成されている）ため、内容を確認します。

「繰越利益剰余金」の行を選択し、[ジャンプ]を押します。



[調整金額リスト] 画面が表示されます。

調整金額リスト

調整月 自 平成 19年 4月 1日 至 平成 20年 3月 31日

調整明細No.	摘要	借方調整金額	貸方調整金額	登録区分
0000000051	税引前当期純利益			調整金額明細自動作成
AS P6200	繰越利益剰余金	121,441,078		

F1 操作説明 F2 印刷等 F3 F4 F5 F6 F7 F8 F9 F10 F11 F12

キャッシュ・フロー項目「税引前当期純利益」に計上するための、調整金額明細が作成されていることが分かります。

P6200	繰越利益剰余金	133,665,000	-119,341,078	121,441,078	0	2,100,000
431	自己株式	0	100,000	300,000	400,000	0

したがって、借方調整金額は、キャッシュ・フロー項目「税引前当期純利益」に計上するための正しい調整金額明細の金額です。
この調整金額明細は、差額の原因ではありません。



「繰越利益剰余金」についても、元帳で勘定科目ごとの取引を確認します。

「現金 (キャッシュ)」を使用した仕訳が存在しています。

相手科目が「現金 (キャッシュ)」のため、キャッシュの移動に関係する仕訳です。



しかし、前述のとおり、キャッシュ・フロー項目「税引前当期純利益」に計上するための調整金額明細しか作成されていません。

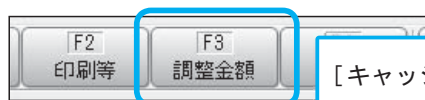
つまり、これが差額の原因です。



「繰越利益剰余金」の2つの仕訳は、「配当金の支払い」ですが、キャッシュ・フロー項目として調整金額明細が作成されていません。
「配当金の支払い（配当金の支払額）」は、「財務活動によるキャッシュ・フロー」に該当します。
「財務活動によるキャッシュ・フロー」に関して、キャッシュの移動に
関係のある仕訳が存在する場合は、追加で計上する必要があります。



調整金額明細を手入力します。



「キャッシュ・フロー精算表」画面の「調整金額」を押すと、
「調整金額入力」画面が開きます。

調整金額入力

新規

調整月 自 平成 19年 4月 1日 至 平成 20年 3月 31日 登録区分 調整金額入力 登録件数 52

調整明細No. 0000000052

摘要

行	借 方	調整金額	貸 方	調整金額
	勘定科目/キャッシュ・フロー項目		勘定科目/キャッシュ・フロー項目	
1	CF 0909 配当金の支払額	2,000,000	AS P6200 繰越利益剰余金	2,000,000

0:AC(勘定科目)
1:AS(繰越利益剰余金)
2:CF(キャッシュ・フロー項目)
指定されなかった科目は、このまま入力してください。

[F1] 操作説明

「配当金の支払い」分を追加計上する明細です。
前述の2つの仕訳（1,000,000 + 1,000,000）を、1つの調整金額明細として、
まとめて計上します。

借方に「2 (CF) : キャッシュ・フロー項目」として「配当金の支払額」
を指定します。
貸方に「1 (AS) : 繰越利益剰余金」として「繰越利益剰余金 (科目区分)」
を指定します。



この調整金額明細を登録することで、
「配当金の支払い」に関する差額は解消されます。



キャッシュ・フロー精算表で、「繰越利益剰余金（科目区分）」の差額を確認します。

貸借対照表科目		損益計算書科目			
コード	勘定科目名	繰越金額	増減	借方調整金額	貸方調整金額
410	自己株式処分差益	0	50,000	0	50,000
415	利益準備金	45,000,000	-200,000	0	0
420	別途積立金	45,000,000	100,000	0	0
P8200	繰越利益剰余金	133,655,000	-119,341,078	121,441,078	0
431	自己株式	0	100,000	300,000	400,000
436	自己株式申込証拠金	0	0	0	0
貸借対照表科目計					

「繰越利益剰余金（科目区分）」の差額として、まだ「100,000」が表示されています。この差額は、前述①で確認した「利益準備金」と「別途積立金」に対するものです。

「利益準備金」の「-200,000」と「別途積立金」の「100,000」の合計が、「-100,000」となり、「繰越利益剰余金」の「100,000」と相殺されて、結果的に0円になります。

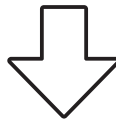
したがって、「繰越利益剰余金（科目区分）」に関する差額の追究が、完了です。

③ 「有価証券評価差額金」

続いて、「有価証券評価差額金」にも、差額が発生しています。

コード	勘定科目名	繰越金額	増減	借方調整金額	貸方調整金額	差額
431	自己株式	0	100,000	300,000	400,000	0
436	自己株式申込証拠金	0	0	0	0	0
446	有価証券評価差額金	0	-60,000	0	0	-60,000
451	繰延ヘッジ損益	0	0	0	0	0
456	土地再評価差額金	0	0	0	0	0
461	新株予約権	0	0	0	0	0
貸借対照表科目計						

借方調整金額・貸方調整金額は、0円です
(調整金額明細は作成されていません)。



前述と同様に、元帳で「有価証券評価差額金」の取引を確認します。

集計期間	自 平成 19年 期首振戻 1日 至 平成 20年 期末決算整理 31日	税処理	税抜
勘定科目	446 有価証券評価差額金		
伝票日付	(相手マスター)	(相手マスター)	
伝票No.	勘定科目 / 補助科目	借方	貸方
繰越金額	摘要		残高
	期首振戻計	0	0
	前月繰越		0
19/04/01	諸口	120,000	-120,000
000060	前期末に計上した評価差額の振り		
	145 有価証券		
	前期末に計上した評価差額の振り		
	189 繰延税金資産		
19/04/01	145 有価証券		180,000
000061	当期末における評価差額の計上		
	4月計	120,000	180,000
			60,000

「有価証券評価差額金」については、この2つの仕訳が存在します。
現預金科目を使用した仕訳（キャッシュの移動）はありません。

したがって、上記、借方調整金額・貸方調整金額が0円であることは、正しい結果です。



このケースは、前述①と同様です。
相手科目について、確認します。

諸口	
前期末に計上した評価差額の振り	
145 (有価証券	
前期末に計上した評価差額の振り	
189 (繰延税金資産	
145 有価証券	
当期末における評価差額金の計上	

相手科目は、貸借対照表科目の「有価証券」です。
差額を追記します。



④ 「有価証券」

キャッシュ・フロー精算表

集計期間 自 平成 19年 4月 1日 至 平成 20年 3月 31日 税処理 税抜 (単位: 円)

コード	勘定科目名	繰越金額	増減	借方調整金額	貸方調整金額	差額
130	受取手形	25,100,000	209,085,500	51,810,000	260,695,500	0
135	売掛金	44,941,000	57,060,822	210,091,778	267,152,600	0
145	有価証券	14,750,000	0	400,000	300,000	0
160	商 品	1,250,000	0	0	0	0
161	製 品	0	0	0	0	0
162	原材料	0	0	0	0	0
貸借対照表科目計						

「有価証券」は差額が0円です。

コード	キャッシュ・フロー項目名	借方調整金額	貸方調整金額	差額
営業活動によるキャッシュ・フロー				
P100	税引前当期純利益			
0100	減価償却費			
0101	減損損失			
0102	貸倒引当金の増加額			
0103	その他の引当金の増加額			
0104	受取利息及び受取配当金		0	0
0105	支払利息	0	10,000,000	10,000,000
0106	為替差損	0	0	0
0107	有価証券売却益	300,000	0	-300,000
0108	有形固定資産売却益	242,858	538,086	295,238

借方調整金額・貸方調整金額に金額が発生しています
(調整金額明細が作成されています)。
この内容を確認します。

F1 操作説明 F2 印刷等 F3 調整金額 F4 F5 F6 ジャンプ F7 自動調整 F8 再集計 F9 単位設定 F10 条件設定 F11 F12 閉じる

「有価証券」の行を選択し、[ジャンプ]を押します。



[調整金額リスト] 画面が表示されます。

調整金額リスト

調整月 自 平成 19年 4月 1日 至 平成 20年 3月 31日

調整明細No.	摘要	借方調整金額	貸方調整科目/キャッシュ・フロー項目	貸方調整金額
0000000018	有価証券			
CF 0200	有価証券の取得による支出	300,000	AC 145 有価証券	300,000
0000000020	有価証券			
AC 145	有価証券	400,000	CF 0201 有価証券の売却による収入	400,000

この調整金額明細の内容と、実際の「有価証券」に関する仕訳でのキャッシュの移動が一致するかを確認します。

F1 操作説明 F12 閉じる

元帳

集計期間 自 平成 19年 期首振戻 1日 至 平成 20年 期末決算整理 31日 税処理 税抜

勘定科目 145 有価証券

伝票日付	(相手マスター)	(相手マスター)	借方	貸方	残高
伝票No.	勘定科目 / 補助科目	摘要			
繰越金額					14,750,000
	前月繰越				14,750,000
19/04/01	100 諸口			200,000	14,550,000
000060	前期末に計上した評価差額の振り				
	446 (有価証券評価差額金				
	前期末に計上した評価差額の振り				
	369 (繰延税金負債				
19/04/01	446 有価証券評価差額金		180,000		14,730,000
000061	当期末における評価差額金の計上				
19/04/01	369 繰延税金負債		120,000		14,850,000
000061					
	4月計		300,000	200,000	
	前月繰越				14,850,000
19/06/01	100 現金			200,000	14,650,000
000084					
	6月計		0	200,000	

F1 操作説明 F2 印刷等 F3 付箋 F4 前科目 F5 次科目 F6 ジャンプ F7 F8 再集計 F9 F10 条件設定 F11 F12 閉じる

16



「有価証券」のキャッシュ・フロー属性設定は、「借方金額：有価証券の取得による支出」、「貸方金額：有価証券の売却による収入」です。調整金額明細は、その設定にしたがって、自動作成されています。

AとCの仕訳が、キャッシュ・フロー項目「有価証券の売却による収入」に計上されています。

Bの仕訳が、キャッシュ・フロー項目「有価証券の取得による支出」に計上されています。

調整金額リスト

調整月 自 平成 19年 4月 1日 至 平成 20年 3月 31日

調整明細No. 摘要	借方調整金額	貸方調整金額
000000019 有価証券		
CF 0200 有価証券の取得による支出	300,000	
000000020 有価証券		
AC 145 有価証券	400,000	
		CF 0201 有価証券の売却による収入
		400,000

登録区分 調整金額明細自動作成

F1 操作説明 F2 印刷等 F3 F4 F5 F6 ジャンプ F7 F8 再集計 F9 F10 F11 F12 閉じる

実際には、C だけが、現預金科目が使用されている仕訳（キャッシュの移動）です。



つまり、A と B の金額が計上されていることが差額の原因です。



「有価証券の売却による収入」および「有価証券の取得による支出」は、「投資活動によるキャッシュ・フロー」に該当します。

A と B の2つの仕訳は、時価評価の仕訳です。

「投資活動によるキャッシュ・フロー」に関して、キャッシュの移動ではない仕訳（時価評価）が含まれている場合は、それを除く必要があります。

調整金額明細を修正します。

調整金額リスト

調整月 自 平成 19年 4月 1日 至 平成 20年 3月 31日

調整明細No. 摘要	借方勘定科目/キャッシュ・フロー項目	借方調整金額	貸方勘定科目/キャッシュ・フロー項目	貸方調整金額
0000000019 有価証券				調整金額明細自動作成
CF 0200 有価証券の取得による支出		300,000	AC 145 有価証券	300,000
0000000020 有価証券				調整金額明細自動作成
AC 145 有価証券		400,000	CF 0201 有価証券の売却による収入	400,000

F1 操作説明 F2 印刷等 F3 F4 F5 F6 ジャンプ F7 F8 再集計 F9 F10 F11 F12 閉じる

「有価証券の取得による支出」の行を選択し、[ジャンプ]を押します。



調整金額入力

修正 登録件数 52

調整月 自 平成 19年 4月 1日 至 平成 20年 3月 31日 登録区分 調整金額入力

調整明細No. 0000000019

摘要 有価証券

行	借方	調整金額	貸方	調整金額
1	CF 0200 有価証券の取得による支出	300,000	AC 145 有価証券	300,000
2	AC 145 有価証券	300,000	CF 0200 有価証券の取得による支出	300,000

[修正] を押し、2 行目に、1 行目を打ち消す明細を手入力します。
 借方に、「0 (AC) : 勘定科目」として「有価証券」を指定します。
 貸方に、「2 (CF) : キャッシュ・フロー項目」として「有価証券の取得による支出」を指定します。

F1 操作説明 F2 F3 F4 F5 F6 F7 F8 F9 F10 中止 F11 F12 登録



この調整金額明細を登録することで、
 前述 B に関する差額が解消されます。

調整金額リスト

調整月 自 平成 19年 4月 1日 至 平成 20年 3月 31日

調整明細No. 摘要	借方勘定科目/キャッシュ・フロー項目	借方調整金額	貸方勘定科目/キャッシュ・フロー項目	貸方調整金額	登録区分
0000000019 有価証券					調整金額明細自動作成
CF 0200 有価証券の取得による支出		300,000	AC 145 有価証券	300,000	
0000000020 有価証券					調整金額明細自動作成
AC 145 有価証券		400,000	CF 0201 有価証券の売却による収入	400,000	

[F1] 操作説明 [F2] 印刷等 [F3] [F4] [F5] [F6] ジャンプ [F7] [F8] 再集計 [F9] [F10] [F11] [F12] 閉じる

「有価証券の売却による収入」の行を選択し、[ジャンプ]を押します。



調整金額入力

修正

調整月 自 平成 19年 4月 1日 至 平成 20年 3月 31日 登録区分 調整金額入力 登録件数 52

調整明細No. 0000000020

摘要 有価証券

行	借方	調整金額	貸方	調整金額
	勘定科目/キャッシュ・フロー項目		勘定科目/キャッシュ・フロー項目	
1	AC 145 有価証券	400,000	CF 0201 有価証券の売却による収入	400,000
2	CF 0201 有価証券の売却による収入	200,000	AC 145 有価証券	200,000

[修正]を押し、2行目に、**A** の金額(200,000円)を差し引く明細を手入力します。

借方に、「2 (CF) : キャッシュ・フロー項目」として「有価証券の売却による収入」を指定します。

貸方に、「0 (AC) : 勘定科目」として「有価証券」を指定します。



この調整金額明細を登録することで、
前述 **A** に関する差額が解消されます。

5 差額が0円になっていることを確認する

差額の原因追究および差額を0円にする作業中に表示していた、[調整金額リスト]画面や[調整金額入力]画面を閉じます。

[キャッシュ・フロー精算表]画面に戻りましたら、[再集計]を押します。

「貸借対照表科目計」の差額が0円になっていることを確認します。
勘定科目ごとに差額が表示されていても、合計として0円になっていれば、調整は完了です。

キャッシュ・フロー精算表の完成です。

F7 再集計

6 キャッシュ・フロー計算書を作成する

キャッシュ・フロー精算表が完成したら、[決算処理]-[キャッシュ・フロー計算書]-[キャッシュ・フロー計算書]メニューで、キャッシュ・フロー計算書を作成します。

キャッシュ・フロー計算書 - 条件設定

集計期間: 平成 19年 4月 1日 ~ 平成 20年 3月 31日

前年度繰り越した繰越金額繰越を再作成する ☐

印刷

チェックは付けません。

[画面] ボタンをクリックします。

キャッシュ・フロー計算書

集計期間: 自 平成 19年 4月 1日 至 平成 20年 3月 31日 (単位: 円)

コード	キャッシュ・フロー項目名	金額
P100	営業活動によるキャッシュ・フロー	
0100	税引前当期純利益	121,441,078
0100	減価償却費	3,850,000
0105	支払利息	10,000,000
0107	有価証券売却益	△300,000
0108	有形固定資産売却益	295,238
0111	売上債権の増加額	△266,146,322
0113	仕入債務の減少額	146,857,800
0114	その他流動資産の増加額	△25,005,129
0115	その他流動負債の減少額	223,010,136
S1100	小計	214,002,801
0152	利息の支払額	△10,000,000
S1000	I 営業活動によるキャッシュ・フロー	204,002,801
	投資活動によるキャッシュ・フロー	
0201	有価証券の売却による収入	500,000
0202	有形固定資産の取得による支出	△25,566,672
0203	有形固定資産の売却による収入	16,047,619
S2000	II 投資活動によるキャッシュ・フロー	
0306	株式の発行による収入	3,000,000
0307	自己株式の売却による収入	250,000
	財務活動によるキャッシュ・フロー	
0306	株式の発行による収入	3,000,000
0307	自己株式の売却による収入	250,000
	自己株式の取得による支出	△400,000
	配当金の支払額	△14,600,000
III	財務活動によるキャッシュ・フロー	△11,750,000
IV	現金及び現金同等物に係る換算差額	0
V	現金及び現金同等物の増加額	183,233,748
VI	現金及び現金同等物の期首残高	171,373,850
VII	現金及び現金同等物の期末残高	354,607,598

キャッシュ・フロー計算書

自 平成 19年 4月 1日 至 平成 20年 3月 31日

印刷日付: 平成 20年 1月 31日

(単位: 円)

印刷

[印刷等]を押すと、印刷できます。
キャッシュ・フロー計算書の完成です。

● 最後に

キャッシュ・フロー計算書を作成するときに欠かせない、「活動区分」について説明します。
また、それを踏まえた、差額を0円にする方法のポイントを記載します。

■ 活動区分の概要

キャッシュ・フロー計算書は、一定期間における企業のキャッシュ・フローの状況を、単純に表示するのではなく、営業活動・投資活動・財務活動の3つの活動に区分して表示します。

コード	キャッシュ・フロー項目名	金額
P100	営業活動によるキャッシュ・フロー	
	税引前当期純利益	121,441,078
0100	減価償却費	3,850,000
0105	支払利息	
0107	有価証券売却益	
0108	有形固定資産売却益	
0111	売上債権の増加額	
0113	仕入債務の減少額	
0114	その他流動資産の増加額	
0115	その他流動負債の減少額	
S1100	小計	
0152	利息の支払額	
S1000	I 営業活動によるキャッシュ・フロー	204,002,601
	投資活動によるキャッシュ・フロー	
0201	有価証券の売却による収入	
0202	有形固定資産の取得による収入	
0203	有形固定資産の売却による収入	
S2000	II 投資活動によるキャッシュ・フロー	
	財務活動によるキャッシュ・フロー	
0306	株式の発行による収入	
0307	自己株式の売却による収入	
0308	自己株式の取得による支出	
0309	配当金の支払額	
S3000	III 財務活動によるキャッシュ・フロー	
C100	IV 現金及び現金同等物の増減	
S5000	V 現金及び現金同等物の増減	
C200	VI 現金及び現金同等物の増減	
C300	VII 現金及び現金同等物の増減	

I：営業活動によるキャッシュ・フロー

会社本来の事業活動により生じる現預金などのキャッシュの流れ。
税引前当期純利益から、損益計算書上の非資金損益項目や営業活動によって生じた貸借対照表上の項目を、加減して算出する。

II：投資活動によるキャッシュ・フロー

本社ビルや工場の建設、設備投資など会社の将来を見据えた投資活動に対するキャッシュの流れ。

III：財務活動によるキャッシュ・フロー

営業や投資などの活動に必要な資金を金融機関から調達し、返済していく流れ。配当金の支払いもこれに含まれる。

■ 活動区分とキャッシュ・フロー計算

- 「投資活動によるキャッシュ・フロー」と「財務活動によるキャッシュ・フロー」

投資活動と財務活動に関するキャッシュ・フロー項目については、キャッシュの移動があった場合に、金額が計上されます。

- 「営業活動によるキャッシュ・フロー」

一方、営業活動に関するキャッシュ・フロー項目については、法人税等を控除する前の当期純損益金額（税引前当期純利益）を基準とし、そこに減価償却費や貸倒引当金などの非資金損益科目の金額が含まれていれば減算します。

また、売掛金や受取手形などは、売上高とともに計上されますが、その取引自体にキャッシュの移動はないため、これらの営業活動によって生じた貸借対照表科目の金額も、税引前当期純利益から減算します。

■ 差額を0円にする手順

- キャッシュ・フロー精算表を使用し、貸借対照表の勘定科目ごとに確認します。
- 元帳を使用し、その勘定科目に関する取引（仕訳）を確認します。
- 調整金額明細が作成されている場合は、その調整金額明細と元帳の内容を比較します。
 - 差異があった場合は、調整金額明細を修正します。
 - ▶ 調整金額明細の追加または修正の判断については、前述「活動区分とキャッシュ・フロー計算」を参照してください。
- 調整金額明細が作成されていない場合は、元帳からさらに各仕訳の内容を確認し、相手科目の内容を確認します。
 - 相手科目も貸借対照表科目の場合は、キャッシュ・フロー精算表を見て、差額が発生していないか、調整金額明細が作成されているかを確認します。